



風水害への備え、万全ですか？

ID 1025808

日頃の準備が肝心

- 避難所までの経路を家族で相談し、確認する
- 家の雨どいや側溝を整備して、台風が接近する前に、強風で飛ばされやすい物を室内に入れる
- 非常持ち出し用に、非常食・貴重品などをリュックサックにまとめておく
- 感染症拡大防止のため、マスク・体温計・消毒用アルコールなども用意しておく

災害の危険が高まったら

警報が発表されるなど、市内に災害が起きる危険性が高まると、市は災害対策本部を設置します。被害情報は「緊急時の連絡先」へご連絡ください。また「一宮市防災情報公式ツイッター」を利用した情報の収集も行っています。集められた情報は、迅速な対応に役立てるとともに「道路冠水情報等マップ」へ掲載し、皆さんに提供します。

緊急時の連絡先

災害対策本部 ☎(72) 1330

災害時は、夜間や閉庁日でも職員が待機しています。災害対策本部を設置していないときは、危機管理課（☎(28) 8959）へご連絡ください。

災害情報には敏感に、何度でも

テレビ・ラジオのニュースでは、NHKが災害対策基本法の指定公共機関になっており、災害の情報がいち早く放送されます。情報は刻一刻と変化しますので、何度でもご確認ください。

市が発信する緊急情報

- 「あんしん・防災ねっと」の災害時緊急メール
- NTTドコモの緊急速報「エリアメール」
- au・ソフトバンクの「緊急速報メール」
- 一宮市防災情報公式ツイッター
- テレビ・ラジオのニュース
- 広報車

【問】危機管理課 ☎(28) 8959

洪水ハザードマップの確認を！

【問】治水課 ☎(28) 8642

洪水ハザードマップとは

堤防の決壊や河川の氾濫などにより、浸水が想定される範囲と緊急避難場所などの施設を示した地図です。また防災情報の入手先や非常持ち出し品についてなど、事前に確認しておくとうい情報も掲載されています。



配布場所

- 本庁舎治水課・危機管理課
- 尾西・木曾川庁舎
- 出張所

洪水ハザードマップを確認

ID 1038044

音声説明動画あり

浸水の深さを地図で確認



マンホールの 鉄ぶたなどを販売

ID 1051038 申込書ダウンロード可 【問】管路保全課 ☎(73)8151

古くなり役目を終えたマンホールの鉄ぶたなどを、10枚限定で販売します。



限定**10**枚
(下水道8枚・上水道2枚)

1枚**3,000**円
(税込み)

申し込み(抽選)

9月10日(土)~30日(金)に、申込書を郵送・ファクス・電子メール。
申込書は本庁舎営業課・経営総務課などでも配布

国際芸術祭「あいち2022」 情報コーナー

ID 1043367

STILL ALIVE 国際芸術祭 あいち2022

国内最大規模の現代アートの祭典・国際芸術祭「あいち2022」。
10月10日(祝)まで市内各会場で、国内外のアーティストの作品を
見ることができます。ぜひ、お出掛けください。

【問】博物館管理課 ☎(85)7435

テーマ「STILL ALIVE 今、を生き抜くアートのちから」

今回のテーマ「STILL ALIVE」は、愛知県出身で世界的にも評価されているコンセプチュアル・アーティストの河原温さんが、電報で自身の生存を発信し続けた作品《I Am Still Alive》シリーズに着想を得ています。

「あいち2022」では「STILL ALIVE」を多角的に解釈し、芸術表現を通して不確かさや未知の世界・多様な価値観・圧倒的な美しさとの出会い・疫病や自然災害・戦争など先行きの見えない時代をいかに生き抜くことができるのか、いかに理想的で持続可能な未来を共につくりあげられるのかを考えるきっかけとなることを目指しています。

場所の歴史や文化と対話する作品

「あいち2022」の各会場では、愛知県の歴史や地場産業、伝統文化に焦点を当てた作品が多く展示されています。旧中央看護専門学校で作品を展示中のアーティスト・石黒健一さんは、実際に博物館や豊島記念資料館、樫の木文化資料館などの市内各所を巡り、一宮市の歴史や文化についてリサーチを重ねました。

アーティストが愛知に触れ、いったいどのような作品が生まれたのか、ぜひ会場でご覧ください。

現代アートって難しい？

現代アートの特徴の一つは「物事には多様な視点が存在する」という考え方を尊重することです。一つの作品のメッセージを唯一の答えとするよりも、多様な捉え方や解釈を推奨することが多いと言えます。答えをアーティストの意図に委ねるのではなく、作品をよく観察し「この要素はなぜここに描かれているか」「全体としてはどんな印象か」など着眼点を増やすことも、鑑賞の手掛かりとなります。自分がなぜそう思ったのかを考え、周りの方と対話してみたいかがでしょうか。唯一の答えに縛られない現代アートの鑑賞を通じて、新しい発見が得られるかもしれません。